

令和4年度 月影保育園 施設の自己評価について

今年度も、コロナへの対策と共にスタートした1年だった。年度当初に保育の全体計画、年間計画、月計画、週計画を子どもの発達状況に合わせて作成したが、計画した中身については、その時の状況に応じて随時見直しをしながら行って行った。

毎月の計画は、行事や活動等、子どもの表れ等、前月の反省をして、それを踏まえて次月の計画を立て、さらに活動の目的を確認し、本当に実施する必要があるか、年齢別に分散してできないか等、中身を精査して実行していった。

本年度も、お散歩で季節ごとの植物を見つけたり、地域の人達とふれ合ったり、畑や花壇での野菜作り等の活動は、本園ならではの大切な活動なので、実施前後の手洗い、うがい、マスクの着用等で対応しながら実施した。今後も、他の園にない本園ならではの体験活動は、コロナ禍でも実施出来るよう工夫していきたい。

保育室は、換気を心掛け、随時消毒も行って行った。各部屋に空気清浄器も設置し、常時窓を開けておくようにした。今年度は加湿器も3台設置し、乾燥を防ぐようにした。そんな中で、子どもたちは、遊びを工夫し元気に活動していた。また、室内や廊下に不必要なものは置かないようにし、安全面と共に、自然の風が入るよう心掛けている。

屋外の砂場や遊具は、引き続き安全面と衛生面の両面から常にチェックした。不備を見つけたら、すぐに報告、連絡することを忘れないようにしている。今年度は、鉄棒下のゴムチップが破損していたので、補修した。

保育士の不適切な行為が話題になったが、本園では、保育者の子どもへの言葉かけ、表情や、保護者への対応など、お互いに注意し合って、明るく、温かいものにしていくようにしている。保育者の何気ない一言が、子どもや保護者にはきつく感じることもあるので、普段から言葉掛けには全職員で気を付けている。

今年度は、秋頃に新型コロナによるクラス単位での登園自粛があったが、年度末に向かって次第に収まってきている。昨年同様、毎年の行事や活動は、本当に子供のためになっているか、必要なものかを問い直しながら、一つ一つの活動を検討してやり方を工夫して行った。

身体測定、おつとめ、避難訓練等は、毎月行い、子供をしっかり見つめ、子どもの成長・変化を捉える場にした。運動会、生活発表会については、全員で行う形から、時間差でクラス毎に行う形に変えた。密にならずに、ゆっくり参観出来たと保護者からも好評だった。今後も、子どもや保護者にとって、より中身の濃いものになるよう工夫して行きたい。

コロナ対策で、担任と話す機会が大幅に減ってしまったため、保護者面談を7月に実施したが、職員にも保護者にも好評だったので今後も続けて行きたい。

以上の事を、全職員で自己評価しました。これをもとに、次年度も、さらに質の高い保育を目指していきます。